

については、毎年8月と12月にJAグループ、農政連にて実施しております。

Q サツマイモ基腐病の発生について、令和5年度の状況はどうだったか？

A 令和5年9月25日時点で熊毛地区で16%（前年24.4%）と減少傾向にありますが、青果用甘藷については、収穫後に基腐病の症状が発生したとの報告を販売先から受けています。

Q 農薬（除草剤・殺虫剤等）の助成が出来ないか。

A 予約購買、除草剤フェア（4月中旬から5月末）等実施しておりますのでご利用ください。助成については、大口需要農家対策等講じています。

Q 購買事業取扱高を見ると、

肥料の取扱高が前年に比べるとかなり下がっているが、実際に取扱い数量も減っているのか。

A 作付面積減少に伴う取扱量の減少などにより、取扱い数量が減少しています。

【農家経営支援センター】

Q 青色申告会への入会を断られた事案を聞いている。その理由は何か。

A 会員数が多く、現状の人的体制では事務処理が困難なため、受入れてきておりません。次年度の受入れができるよう事務員の増員を検討しております。

Q 昨年の座談会でレザリー

フアンに対する施策を要望し、後継者育成の施策について検討しますとの回答であったが、令和5年度どのような取り組みがあったか教えてほしい。

A 新規農家に対しては、関係機関と連携して既存農場の視察研修や低コストハウス導入を支援しています。農家の高齢化が進んでいる状況ですので、今後後継者育成の取り組みを強化して参ります。

Q スマート農業の普及・拡大による農作業の省力化・規模拡大支援に取り組むとあるが、具体的に農協自体が取り組んでいくことが計画されているのか。

A 熊毛支庁が事務局となり、行政や関係機関・生産者で組織する種子島スマート農業推進協議会が令和6年4月に発足しました。

スマート農業技術の研修や実証などを行い、導入に向けて課題を検討し普及を図ることが目的となっています。農協自体で取り組むという事ではなく、協議会と連携を図りながら取り組みを進めていくという事です。

Q スマート農業の普及拡大活動で、サツマイモ基腐病対策として、センシングドローンとGPSレベラーによる2つの実証実験を行ったとあるが、成果について教えて欲しい。

A 実証実験については、県経済連・鹿児島大学・メーカーの共同で2年間実施されました。GPSレベラーについては、畑の勾配が付けられることで排水改善の効果が見られました。また、センシングドローンについては、上空から撮影し基腐病の異常株発見に活用しますが、撮影した時間や天候、品種などに

より判定精度にバラつきが見られました。実証実験の結果として、一定の効果はあったものの課題も多く、また、今後種子島の中で運用していくとなると、どこが窓口となって誰が実施するのかなど、今後の検討が必要であると思われれます。

Q 令和6年度の事業計画（経済事業）の中で、人材不足に対応する労働力確保、ICTの活用に取り組みとあるが、具体的にどう取り組むのか。

A 人手不足への対応や生産性の向上を進めるためには、ICTを活用したスマート農業の推進が重要となっています。行政や関係機関・生産者で組織する種子島スマート農業推進協議会が発足されましたので、新技術の紹介や研修等については随時、生産者へ情報を繋げて参ります。

Q 島内あらゆる業種で人手不足ではあるが、JAでは人手不足をどう考えるか。外国人を雇ったとも聞くがどうだったの



【全体運】おいしいものを食べたり芸術に親しんだり。秋を満喫すると開運。友人との外出にもツキがあります。絵手紙が吉
【健康運】香りの良い飲み物と好きな曲でリラックス
【幸運を呼ぶ食べ物】 キクイモ